



Title	彙報・編輯後記
Author(s)	
Citation	懷徳. 1955, 26, p. 80-82
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90289
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報

(懷德堂記念會)

○昭和二十九年九月二十一日、本會事務所を大阪市東區北濱三丁目三十番地に移轉、同時に事務連絡所を豊中市柴原大阪大學文學部に設けた。

○十月二十五日より三十日まで (二十六日を除く) 五日間、本會及阪大文學部主催、大阪市大文學部、朝日新聞社後援で、阪大醫學部第二講堂に於て、毎日午後六時より七時半まで、第八回懷德堂秋季講座開催、聽講者延五百人。

演題と講師

アメリカの東洋學

京大教授 吉川幸次郎先生

フランス法學界と日本(幻燈使用)

阪大教授 石本 雅男先生

インドの見聞(幻燈使用)

京大講師 藤吉 慈海先生

——佛語と宗教事情——

トルキスタンの民族(幻燈使用)

京大教授 岩村 忍先生

慶陵の研究(幻燈使用)

京大教授 田村 實造先生

○十月二十三日北濱適塾に於て午後一時半より記念祭典執行、終つて大阪市大教授橋川時雄先生の「中井履軒先生の史記學」と題する講演があつた。

○昭和三十年五月二十三日より二十八日まで、本會及阪大文學部主催、大阪市大文學部、朝日新聞社の後援で、阪大醫學部第二講堂に於て懷德堂春季講座開催、聽講者延五百人。

演題と講師

三 禮

阪大教授 木村 英一先生

元 遣山の史詩

京大名譽教授 鈴木 虎雄先生

王 維の 話

立命大教授 橋本 循先生

齊民要術と中國の農業

京大教授 天野元之助先生

源 氏の 物語

關大教授 島田 退藏先生

中國の辭書類

同 石濱純太郎先生

(懷德堂學友會)

○昭和二十九年十月五日「懷德」第二十五號發行。

○昭和三十年一月一日 會則改正、(別項掲載)本年より懷德堂から補助を得て見學會などを復活することとした。

○六月五日 見學會復活第一回として、澤瀉久孝先生の指導で飛鳥の萬葉遺蹟を見學參加者五十名。

●萬葉遺跡見學 來る十一月十三日(日曜) 萬葉學會に合流して

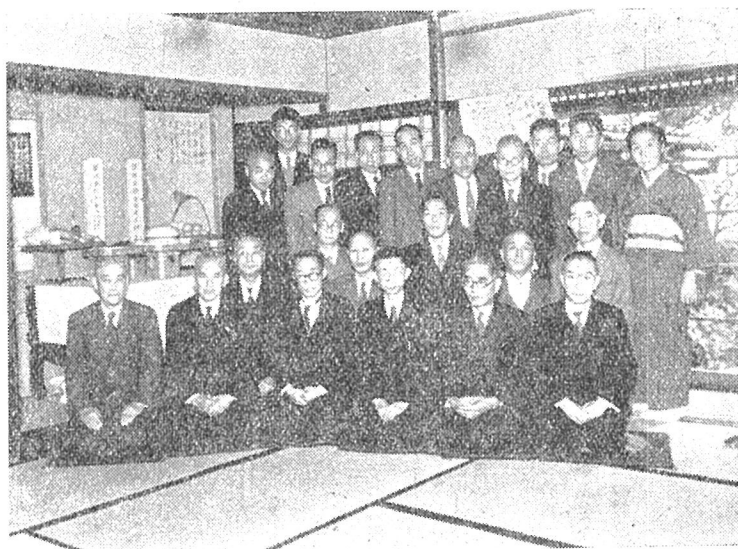
二上山に登り當麻に下る。

指導澤瀉久孝先生

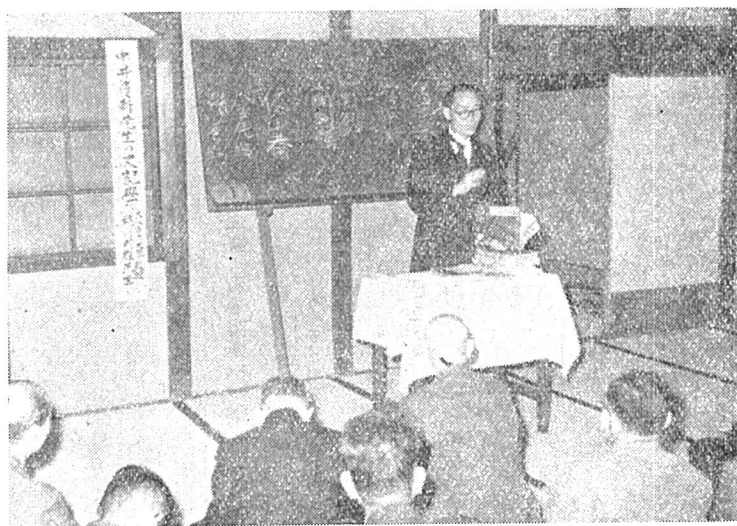
參加希望者は、豊中市柴原阪大文學部内懷德堂學友會宛申込んで置いて下さい。詳細は後日通知します。

懷徳堂記念祭典と記念講演會

昭和二十九年の記念祭典は、十月二十三日北濱三丁目の適塾に於て執行、終つて記念講演會を開いたが、疊の上の祭典、講演會は、これが初めてで、寫眞は當日の様様である。



祭典式場



(適塾樓上) 講演會場

編輯後記

○木村先生の「周易」、重澤先生の「春秋」、鈴木先生の「元遺山の史詩」の三篇は、嘗て我が古典講座を飾つた御講演の要旨である。聴講者には今なほ記憶に新たなところであらう。

○今回は關西大學の高橋先生が、特に本誌の爲めに民俗學上の御蘊蓄の一端を御漏し下さつて、「猿の生肝」の一篇をいただくことが出来た。

○阪大國文學研究室に居られる八木氏は「契沖」について、また堂友會員片山氏は「王仁塚」について、いづれも平常の御研究に基く興味深い讀み物を提供して下さい。こゝに御執筆下さつた先生方に對して厚く御禮申し上げます。

○堂友會の再建が漸く進んで來たので、こゝでひとまづ名簿と會則とを附けた。

○吾が堂友會の機關誌「懷德」は、全部懷德堂からの補助に依つて發行してをるのであるが、更に本年より見學會、茶話會などを催す費用を補助していただくこととなつた、重ね重ねの御厚意感謝に堪えぬ、厚く御禮申上げる。(藤塚)

訂正		第二十五號		明治醫學の一隅	
頁	行	誤	正		
三	八	エールリヒ	コツホ		
	九	Ehrlich	Koch		
	一〇	エールリヒ	コツホ		
四	一一	Virchow	Virchow		
	六	米糖	米糖		
	八	米糖	米糖		
五	一〇	米糖	米糖		